

三浦浩志 | みうら・ひろし |

三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 光技術部 先進フォトニクスグループ

**三浦浩志**

2012年度
大学院工学科学研究科
博士前期課程
電子システム工学専攻 修了



Fig.1——業務の様子（ワークショップでの集合写真）



Fig.2——部活動の仲間と

友人や環境に恵まれた大学での日々

入学当初は単科大学ということもあり、大学生活のイメージが正直あまり湧きませんでした。しかし、入学後はワンダーフォーゲル部でのクラブ活動やアルバイト、友人関係などさまざまな面で濃密な時間を過ごすことができました。また、3回生からは一乗寺で下宿生活を送っていましたので、自転車や原付で京都のありとあらゆる場所を巡り、文化面だけではなく自然も豊かであるという京都の新たな魅力を発見できました。

4回生で研究室に配属されてからは、研究を遂行する上で直属の先輩が異なる研究室所属だったこともあり、2つの研究室で多くの装置を使用する機会に恵まれました。このような貴重な環境のもとで、装置の動作原理を理解し、今ある装置でどのような結果を出せるのかについて、限られた時間であらかじめ予想しながら実験を進めることができるようになりました。社会に出たときには、このような術をもっているのは当然ではなかったと気づいたため、現在の業務で大変役立っています。

一方で、社会人になると社会では多様性が求められることも改めて実感したので、工繊大は課程間や学年間、さらには他大学との間などで交流を深められるような仕組みがあるとさらに良いと思います。

通信の高速化という夢を現実

大学では光通信の高速化について研究していました。希望勤務地の関西で、大学で学んだ知識を生かせる通信機器に直接携われるのは三菱電機だけでしたので、入社することに決めました。また、希望する勤務地や業務を相談・調整したうえで内定となるので、安心感もありました。入社後は、装置の回路設計から海外におけるシステム試験、お客様への納品までを担当しました。通信業界の流れは特に早く、海外のお客様を中心に厳し

い声をいただくこともあります。しかし、理由をきちんと説明することで納得いただけることが多いのも事実のため、英語がネイティブではないというハンデを逆にとり、試行錯誤しながらも論理的な説明力と英語力の向上に努めました。入社3年目には、現在の鎌倉の情報技術総合研究所に異動となり、通信の高速化に対して、自分自身の知恵や仕掛けを製品に反映できる研究開発職に従事しています。通信の高速化という夢が現実になっていることを、実際に自宅のネットワーク速度向上で実感できるなど、充実した日々を過ごせています。

社会で活躍できる技術者になるために

後輩の皆さんには、小さくても良いので、日常生活で常に何らかの目標（学業、アルバイトなど）を立てて行動することを意識してほしいと思います。学生の間は社会人よりは時間を確保しやすいと思いますので、徹底的に情報を収集して、その目標を達成するための戦略を見つけてみてください。その際、学業に関連する目標であれば実行しやすいと思いますし、そのためには仲間づくりも大切だと感じます。私は自分の仕事領域を区切らずに人の仕事も可能な限り支援することで、自分自身がスキルアップできるだけでなく、信頼も得られるように意識して行動しています。社会に出ると、そういった戦略を人に見せる機会が増え、その評価が自分への評価にもつながっていくと思います。

工繊大はコンパクトな大学ですが、その分先生との距離が近く、一般企業での経験が豊富な先生も多いため、社会に出て生かせる技術を得ることができる大学だと思います。技術の進화가早い昨今の社会では、基礎となる技術をしっかり理解し身に付けたいとそれに対応していく必要があります。その点、工繊大はどこでも通用する基礎技術をしっかり学べ、さらには自分自身の社会での振舞い方も学ばせてくれる大学なのではないでしょうか。

大学で基礎技術をしっかりと学べたことで、**目まぐるしく進化する技術に対応する力がついた。**